

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第16回議事メモ

日時：2023年9月27日(水) 18:30～20:30

場所：オンラインzoom

参加者：37名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

Supported by



THE NIPPON  
FOUNDATION

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

<愛知県 多文化共生推進室 中奥さん>

・14市において、115名70世帯の方が避難している。増加は緩やかになってきているが、他県から移って来られる方がいたり、全国的には新規避難者は減っているのだが、愛知県は月に1人～2人増えている状況。

・支援策としては引き続き、寄付物品の配送、SIMカードの配布、オンライン日本語教室を開催している9月14日に第1回を開催した後、9月21日にオンラインで第2回を開催、12名の避難民の方に参加頂いた。笑顔が見られる日本語教室となっている。約週回のペースで11月16日まで開催予定。こちらの教室を知らないという方がいらっしゃれば、ご紹介頂きたい。以下の愛知県多文化共生推進室のWEBサイトに詳細があるので、ご参照頂きたい。

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/tabunka-online-nihongo2023.html>

<名古屋市 国際交流課 石川さん>

・8月末公表のデータで65名の避難者が在住している。直近ではもう少し増えている。また、以前は身元保証人がいる状態で名古屋に来る方が多かったが、最近では国のマッチングを利用して身元保証人のいない方が、名古屋市に転入希望というケースが増えている。皆さんからのご支援により、名古屋に住むことができているとので、感謝申し上げたい。

・JUCA、RSY、名古屋市といつる連携の「チーム」による支援活動が注目を受け、日本財団のシンポジウムにて発言する機会があった。ニュースにも取り上げられているので、検索してご覧頂くことができる。

・身元保証人がいない方の場合は、日本政府の入管庁のマッチングで直接来日している。国の一時滞在施設で生活しながら、それぞれの地域の支援体制を見て、名古屋に来たいと希望をする方が増えているようだ。

<名古屋出入国在留管理局在留支援部門 杉浦さん>

最新情報として本日報道があったが、入管法改正があり、ウクライナ避難民に関係があるところがあった。まだ始まってはいないが、現在ウクライナ避難民の方は人道的配慮により「特定活動」の在留資格が付与されている。人道的配慮でとて、新たに「補完的保護対象者」という認定制度ができあがった。運用開始は本年12月を予定。まだ手続きの情報が入ってきておらず詳細は言えないが、こういった機会を利用して手続きの必要の有無などの話をさせていただきたい。

Q: 認定が変わることで「特定活動」と比べてどのような変化があるか？

A: 認定されると「定住者」資格で在留できるようになる。就労に制限がなくなったり、比較的安定した生活がしやすくなるということ。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

あいち・なごウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## ◎ネットワーク

- \* 物資の受け取り・お届け(お米・冷凍食品・保存食品・調味料・飲料・菓子類・雑貨類)
- \* 愛知県参議院議員と意見交換      \* 個別訪問      \* 家財購入・調達とその運搬
- \* 相談事により、各種問い合わせ
- \* イベント・交流会: シャンソンコンサート招待、医学生との茶話会藤田医科大学ばんだね病院、  
刺繍の会

## ◎名古屋市委託事業

- \* 支援登録窓口問い合わせ対応      \* 個別訪問      \* 各種相談対応      \* 託児・通訳
- \* 市営住宅の内見と契約の同行      \* エアコン設置・ガス開栓の立ち合い
- \* 物資提供: 生活用品・コート・リュック・軽食等      \* 調達した家財の運搬
- \* イベント: ウクライナデー、支援金贈呈式

- ・今までなかなかお会いできていなかった避難民の方へ個別訪問することができた。
- ・名古屋市石川さんから紹介があったが、身元保証人のいない方の来名が相次いでおり、新規の家財調達、運搬、手続きの同行などに多くの時間がかかっている。
- ・月1回程度開催している刺繍の会は、回数を重ねて、時間を超過するほど刺繍に没頭する方が増えてきている。
- ・支援金贈呈式は、初めてお会いする方が40名程いらっしやり、東海地域に住んでいても普段会う機会のない避難者の方々同士で交流をすることができたようだ。また、支援登録の通訳ボランティアにもご活躍頂いた。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

●あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## 【個別相談】

- \* 障害者手帳を作りたい
- \* アルバイトの申込補助
- \* 市営住宅について入居に伴い家具家電の調達
- \* 提供品の運搬
- \* 転出・転入届・運転免許試験・病院の同行依頼
- \* 各種必要書類申請の補助
- \* 届いた郵便物の内容を教えてほしい
- \* 引っ越しに伴い、水道ガス電気の開栓閉栓
- \* 日本語学校に通いたい 等

## 【課題】

- \* 市営住宅入居に伴う家具家電の調達
- \* 体調不良や持病について
- \* 経済的不安→就労できていない・転職したい
- \* 低年齢児や高齢者以外の支援の不足
- \* 心的ケアの必要性
- \* 新規支援者登録の減少:登録総件数:企業・団体:63件(+2)、個人:176件(+4)  
マッチング総件数:企業・団体:87件(+7)、個人:135件(+12)

・新規で愛知県・名古屋市にきた身元引受人のいない方に関して、転入・転出届の同行に始まり、病院など同行支援の相談が多数あった。現在でも、転入希望の方の情報が届いているので、引き続き調達の必要があるという課題が続いている。

・アルバイト申し込みなど、書類作成の補助に関する希望が多い。

・体調不良や持病についての相談が増えてきたと感じている。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川ロリュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・8月末から毎週のようにイベントやフェスタ、マルシェへの招待を頂いている。お陰様で、これまでに避難民が作った作品はほとんど売り切れとなっている。売上は、来月くらいにウクライナに支援金として送金したい。
- ・名古屋市からも話があったが、愛知県内の他市、また関東から、名古屋市に避難したい方が多く、身元保証人がいない方も含まれるためRSYと協力して支援していきたい。名古屋市に転居したいという希望者が続いている中には、勤務先が身元保証人であるという方も複数いらっしゃる。退職すると身元保証人がなくなるため、問題になっている。その中には若い人もいるため支援が必要。
- ・名古屋市と一緒に日本財団のシンポジウムに参加した。名古屋市とRSYのサポートのおかげで避難民受入の全国的なモデルになっているのが嬉しい。
- ・企業の<ニトリ>がウクライナ避難民のサポートを発表した。今毎月頃から来日した避難民は(日本財団の)支援金をもらえていないので、非常にありがたい。手続きや窓口の対応もスムーズであった。また、支援金だけでなく、雇用のサポートも行っている。ハローワークでもニトリの仕事が人気でこれまで5人面接し採用された、引き続き3人が面接待ちで、ほぼ採用されている。避難者から「私の近くに仕事があるか」と聞かれるなど、人気があり、ハローワークでの対応が忙しくなっている。
- ・来月も多くのイベントに参加予定。10月10日はヒサヤママーケット、それ以外にも、毎週イベントに参加予定。
- ・2ヶ月前に東京の団体から支援金を送るので、直接ウクライナ市民のために救急車を買ってほしいという話があった2014年から救急車を買っている信頼のあるドイツの団体と繋がることができ、2台購入することができた。ザポリージャ州の病院とヘルソン州の団体に救急車を贈ることができた。こういう支援を続けたい。危ないところから避難したり命を救うために救急車は大切な存在。救急車も攻撃の対象になっており、地雷に遭うと壊れるということもあり、現地のニーズが非常に高い。

Q: 身元保証人がないと何が困るか？

→A: 名古屋市は、RSYとJUCAがあるので生活サポートや相談ができるので他の自治体の状況と違う。しかし、例えばニトリの支援は身元保証人がある前提となっており、身元保証人がなくなると支援などが貰えなくなる。身元保証人がいないと日本にいらなくなるというわけではないが、受けられる支援が減る可能性がある。個別のケースを勘案して、支援の必要性を企業にも伝えていきたい。

# 支援団体からの報告と質疑

Merry Land 清水裕子さん

・今回、ウクライナ避難者の方向けの日本語クラスを担当するにあたっての経緯はUCAの川口さん、榊原さんと10年ほど前に一緒に日本語の勉強をしていたことがきっかけである。

## (1)日本語クラスの概要

・2022年5月から(第1期は20名で)スタートした。3ヶ月を一期として、先月月末に第4期が修了した。週に1回～3日、1日3時間、日本語教師4名でチームティーチングとしていた。この講師たちは、アフガンやミャンマーなど他の避難民への教授経験がある者。トータル約名、4期とも受講頂いたのは10名、のべ77名に参加頂いた。

## (2)他の外国の方の日本語学習との違い

・モチベーション:学習者主体で見ると、各自の目標設定として、「日本語がうまくなりたい」より先の目標が見えづらく目標設定がしづらいことがあった。例えば、「国が安定したら帰国したい。」「帰国後は日本語を使う予定がない」「強いモチベーションに繋がらない」そのため、自律学習に繋がりにくい。宿題を出しても、宿題をしてきている人が少ない。テストのための勉強も必死さが無いということがあった。

環境面から見ると、様々なサポートをしていただいているので、最低限のコミュニケーションができれば生活ができるので、他の学習者と比べると必死になって学習する人は限られていると思った。

・日本語学習の優先順位:アルバイトが優先で、クラスがあっても仕事が入ったからという理由で休みにする方も多かった。

## (3)クラスの運営上注意をしたこと

・日常生活日本語:積み上げ式、文法ではなく、実際の生活ですぐに使えるように学習することを意識した。インプットとアウトプットが両方できるように。

・日本文化やルール、日本社会との交流:専門家にお越しいただいて、日本文化やマナー、ルールを教えてもらった。学習の中でインプットと同時にアウトプットができるように目標を立てて行った。

# 支援団体からの報告と質疑

Merry Land 清水裕子さん

具体的には、日本文化(箸の持ち方、礼儀作法、着物、企業訪問、小学生との交流、書道教室、ファッションやメイクの勉強、(歴史)市政資料館の見学)、社長さんによる職場講話、美容院に行って実際に日本語を使う練習などを行った。

・精神的な面も留意をできるようにしていた。講師はアフガンやミャンマーの方と触れる機会もあるので、そういった面での配慮もできるだけした。1期のときは、朝教室を開けると泣いている(自分の街が爆撃を受けた)といったセンシティブな場面もあったので、教室で伝える語彙もCAのリュウダさんやナターリアさんに相談しながら留意して行ってきた。

## (4)学習効果

すべての期を受講した学生は聴解力と語彙力が大変アップした。普段の生活の中で言葉を聞く機会が多い人ほど伸びた。また、文化やルールの理解もかなり深まったようだ。会話力の個人差がかなり大きい。日々日本人との接触が多い人、アルバイトしている人はかなり伸びたが、アウトプットできる機会がある方ほど力が伸びたようだ。

## (5)課題

- ・モチベーション:これまで話して来たとおりでである。
- ・発話機会の少なさ:教室で勉強している3時間だけしか発話する機会がないという人もいる。学習者側も支援者側もすぐに翻訳機器に頼るのではなく、「やさしい日本語」を使って、返事がすぐに帰ってこなくてもしばらく待つ、コミュニケーションの方法を工夫するなどが大事。学習者が「伝わる」「わかる」という実感を持つことができる。
- ・学習困難者:年齢的にも学習が難しい方という方もいるのでサポートが必要と思った。1年半ほど学習を続けてきて、個人差がとても大きい段階。愛知県で勉強している方もいるが、少人数での個別対応、学習者が学習したいことに応じての学習にすれば、モチベーションの向上、学習力の向上につながるのではと思った。
- ・川口リュウダさんより:清水先生のことは何年も前から知っているが、先生は日本のルールにとっても厳しい。避難者がよく我慢できていると思ったこともあったが、一方、みんな先生のことが大好きになったようだ。大変感謝している。

# ウクライナー一時帰国について

浅井絵利香さん

- ・私自身は日本人だが、夫がウクライナ人なので2人の子どもはウクライナ国籍を持っている。
- ・2021年からウクライナに住んでいて、今回の大規模侵略で子どもを連れて日本に避難することになり、子どもたちは避難民と同じような状況でサポートしていただいている。夏にウクライナに一時帰国したが、私の場合は、個人としての帰国であり、大きな支援団体と話したということではないので、普通の一市民で避難した人が一時帰国した時の参考として話を聞いてほしい。
- ・一時帰国期間：7月23日～9月2日。ポーランドワルシャワ経由。万が一、道中で何かあったときのために、消防署で応急処置の研修を受講。さらに、応急処置ができるような医薬品も購入し、スーツケースと手荷物両方に入れていった。幸い無事に行って帰ってくることができたが、帰国する避難民の方がそういった研修をしておく、万が一の備えとして良いのではないかと思う。
- ・ウクライナにいるクロトペンコさんのレシピを日本語に訳して、ウクライナ国内避難民や軍に寄付をするという活動をしている。これまでは100万円を寄付することができた。クロトペンコさんにお会いしてご挨拶することができた。

## <キーウの状況について>

- ・私たちは、キーウ工科大学の近く(中心部から少し離れたところ)に住んでいる。写真は、マクドナルドに娘と行った時のもの、また、スーパーにたくさん惣菜が並んでいる。また、ウクライナでは(日本の)大福がブーム。カフェから「(日本人だから)大福を作れるか？」と声掛けがあり、作ったところ100個くらい売れた。ウクライナで避難民の方も、日本で和菓子の作り方を勉強しておく、ウクライナで和菓子がブームなので、帰国後にキーウ屋さんなどに就職できるかもと思った。
- ・写真だけを見ると、食べ物がいっぱいあって、楽しそうに見えるが・・・違う側面を紹介したい。2～3日に1回程度、多い日では1日5回ほどの空襲警報。警報が鳴ると地下鉄に避難した。子どもたちが怖がって早くうちに帰りたいとなったので、すぐに帰宅した。このような状況のため、一時帰国中、キーウの中心部に行ったのは3回だけ。あとは、ほぼ家の近くの子どもたちが安心できる環境のみで生活していた。キーウ到着週目に夜間のドローン攻撃があり、カーテンの隙間から爆発の光を見た。



# ウクライナ一時帰国について

浅井絵利香さん

・8月上旬に家の横にある公園で遊んでいる際に警報がなり、シェルターに避難している途中で頭上をウクライナの防空システムが飛んでいくのを見た。公園からシェルターに行くほんの数分だが、肉眼で見える、頭上をすごい音で飛んでいくのは本当に怖い状況だった。

・2022年3月にロシア軍の侵攻があったとき、私達の家から徒歩分くらいのところまで迫っているという状況の中で避難してきた。その時に攻撃で破壊された近所のマンションは修理が完了していた。一般住宅は支援が届いていて住民が戻る一方、駅や商業施設は修復されていないところが残っている。キエフという街は、活気が溢れてきれいに見えるが、視線をちょっと移すだけで壊れた建物があったりしている。

・自分が実感したことで、報告をする際に強調しているのは、防空システムがもっと必要ということ。一日に何回も爆発音が聞こえてくるが、飛んでくるミサイルを撃ち落としてくれている。キーウは守られているが、ちょっと外れた街や西ウクライナ(いとこが避難している街など)では、防空システムが足りないので、住宅に落ちた死傷者が出たこともあり重要だと感じている。

・一時帰国で一番ショックだったことは、隣の公園を子どもたちと散歩している時に、両目、両腕を失って体調が悪そうな20-30代の若い方がご両親に支えられながら歩いていた。おそらくリハビリ中であると思った。そういう方が実際に歩いているのを目にして、本当にこんな痛々しいことが起きているのだと実感した。明らかに怪我をされた方が増えている。自分のマンションにも、掃除担当の方が2022年3月の攻撃で足を怪我して足をひきずりながら歩いている。怪我をされた方に対して、リハビリはもちろん必要だが、私自身がどう接したらいいかわからない。国を守って怪我した方がたくさんいらっしゃる。健康な自分を受け入れる心の気持ちが複雑なものがある。同じように、日本に避難されている方が帰国する時、そのギャップや自分自身が受け入れるという気持ちの問題は、難しいものになってくるのではないかと自分自身が体験して実感した。

# ウクライナ一時帰国について

浅井絵利香さん

## <ウクライナの子もたちの学校について>

- ・本来であれば、長女が今年9月からウクライナで小学1年生の年齢(6歳)だが、それは見送り、来年3月に日本の幼稚園を卒業し、来年9月からウクライナで小学1年生として入学することを目指している。
- ・本当は公立に入れたらいいが、日本で生活をしているので、ウクライナ語を忘れていってしまった。公立の場合、子どもが勉強についていくのが難しいのではないかと思っている。そのため、私立の小学校4つを見学に行ったが、その学校に付属している幼稚園2箇所が閉園していた。理由はシェルターがないため、また、たくさん子ども達が国外に避難しているため、運営ができないということであった。小学校も20人定員のところに2人しかいない、1年と3年と一緒に授業を受けているという状況もあった。
- ・ウクライナでは、シェルターがないと学校は継続できないとなっているのだが、子どもたちはシェルターで昼寝、食事、勉強をしているという状況。元々、コロナのときはキーウはロックダウンをしていたので、その頃から子どもたちは学校が閉まってオンラインで自宅で勉強をしており、集団で一緒に勉強をするという体験していない。そのまま侵攻が始まって、避難でちりぢりになってしまった。さらに、学年学年に応じた勉強ができなくなっている。一方子どもが少ないので、先生方も一人ひとりに応じた勉強をしてくれているようだ。ただ、本来できていたような学習ができていない状況というのは4つの学校の先生、皆が言っていた。

## <必要なこと>

- ・キーウに関しては、市民生活の「物資的な不足」はあまり感じられない(昨年冬に品薄だった発電機・蓄電器も売られている)
- ・一方、物価が1.5倍ほど上がっている。失業により仕事がなくなって、生活苦の人が増えている。(街なかだけでなくところにもホームレスの方が増えている)。金銭的な援助も必要。
- ・子どもたちの学習機会(シェルターの整備)、防空システムが必要
- ・怪我をした方々への支援
- ・ウクライナに帰国後の就労支援、メンタル支援

# ウクライナー一時帰国について

浅井絵利香さん

<避難者支援に関してできることは・・・>

- ・避難者の帰国を見据えた就労支援として、日本語が堪能な方がいらしたら、ウクライナの企業の日本担当者としてつなげる可能性もある。相談してほしい。(浅井さんより)
- ・浅井さんのお子さんたちの母語学習が差し迫った課題になっている。郊外に住んでいる避難者の方は同じような課題があると思うが、解決のヒントがあれば・・・  
→解決は難しいが、JUCAのイベントなどウクライナ人が集まる機会に参加していただくのはどうか。
- ・(伊賀市多文化共生課担当者より)避難者が世帯ということで、行政として単独で支援することがなかなかできていないRSYが三重県に照会してくれ、繋がることができ、有り難いと思っている。ご家族離ればなれで大変な生活と思うが、応援していきたい。
- ・(名古屋市国際交流課より)幼い頃に外国で暮らすと自分のアイデンティティが揺れるという課題は、避難者に限らず、多文化共生ならではの課題で対応が必要と思う。名古屋市内の避難者についても課題を持っているかどうか確認していきたい。

# ブレイクアウトルーム共有

- 各ルームでの話し合い内容は概ね以下の通り。
  - ・一人ひとりの避難者の方の気持ちをしっかり理解すること。気持ちを出せる場が大事。少人数でもつながりを持ち続けられる場を作っていくことが必要。
  - ・各参加者から現状の支援内容や思いの共有を行った。
  - ・ゲストのお話から、キーウの市民生活の話などまだまだ知らないことがたくさんあるということを実感した。
  - ・支援の輪を広げていくために、大学生への働きかけなどを検討する必要がある。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。